2024.01.28

黒部ダムだけでなく　「動員」された朝鮮人

「ブラタモリ」（黒部ダムの建設をめぐる）前記事で、この難工事に多くの朝鮮人が動員され犠牲になったことに触れましたが、「１９４５年への道　そもそも徴用工って何？」では、日本側の資料に基づいてその実態が分かりやすく説明してありました。内容は全く妥当であると判断しています。

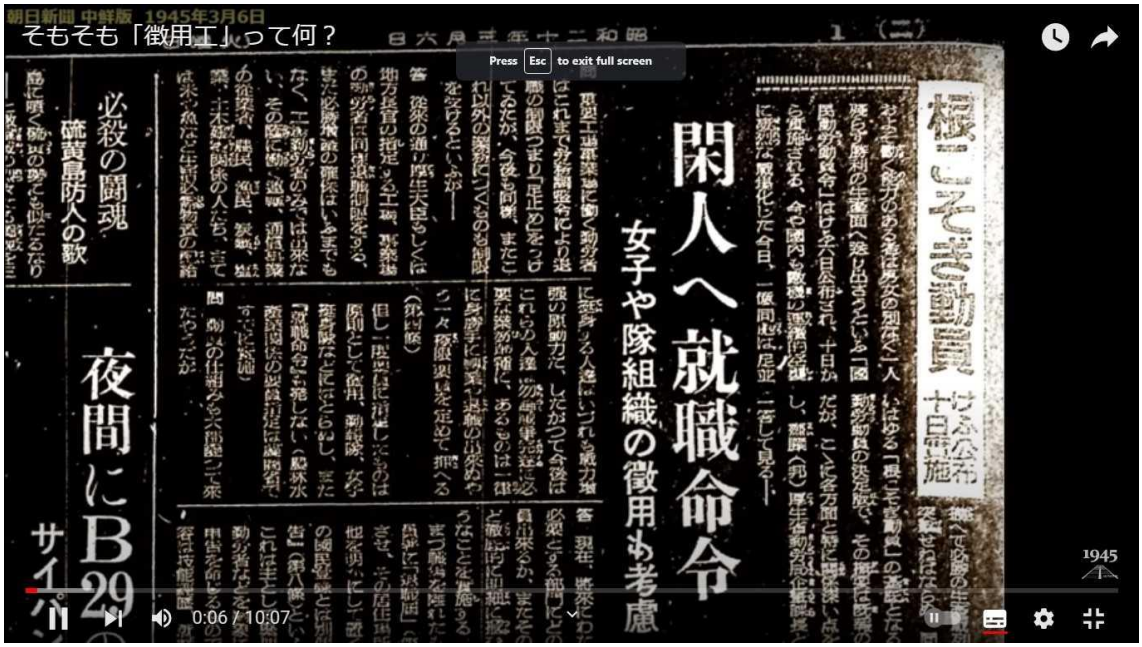
ぜひ、動画をご覧いただければと思いますが、主な内容を「文字化」してみましたので、ご一読いただければ幸いです。

Q そもそも徴用工とは？

A 朝鮮半島から「動員」されて、大日本帝国内で労務にあたった（労働させられた）人々

ここでは「朝鮮から日本への労務動員」に絞る。

朝鮮から日本への労務動員とは、普通は国家総動員法に基づく労務動員実施計画で動員された約 72 万人の男性労務者のこと。（逃亡があったため実数 67 万人というデータも）



Q この「動員」の時期は？　A　1939 年から 45 年。

Q 主な動員先は？　A 炭鉱（それ以外は工事現場と鉱山）

韓国では実態が強制だったものはすべて徴用と呼ぶ。日本政府は「徴用はわずかな期間だけ。あとは自由契約だ」と主張するが、募集も実質は強制だった。

Q 問題点は？

A 多くの人は強制的に動員された。（全員ではないが）

最初は募集。最初の年だけは干ばつで、朝鮮でお米が不作だったため応募が殺到した。

（だが、求人条件に嘘があったら自由な意思で契約したとは言えない。）

Q 嫌なら辞めればいいのでは？　A 強制労働とセットだからそうはいかない。

動員が始まった半年後に「特高警察」がさまざまなトラブルをまとめている

（求人条件と実態が違うとして起こった紛争も報告されている。）

Q 募集による労務動員というタテマエだった頃から、既に実際は当局が強制的に動員したことを示す当時の文書がある。

例：「実務は朝鮮官憲によって強制供出する手はずになっている、すなわち警察において、割当数を必ず集める。」（募集した企業がこういう認識だった。）

1942 年からは官斡旋と言って当局が正式に応募者を斡旋したが、年を追ってどんどん強烈な強制になった。1944 年には朝鮮総督府の官報にこう書かれている。

「労務に応じて希望の有無を無視し、各行政機関に供出を割り当て（強制供出）させていることは問題だと総督府のナンバーツーが説教した」ということだが、焼石に水。

Q 実態は？

A その三か月後に朝鮮を視察した東京の役人の出張報告によれば「出動は全く拉致同様、夜襲、誘い

出し、その他の方策を講じて人質的掠奪・拉致の事例が多くなる。」
（口が裂けても自由契約なんて言えないが、これが「官斡旋」。）
そして 44 年 9 月からは正式に徴用開始。これは文句なしに強制。
Q 2 つ目の問題点は？　A　強制労働。
退職の自由がなかった。（縛りつけられていた）
Q 縛った方法は？
A1 日本に連れてこられた労務者は全員「協和会」という組織に加入させられた。
協和会の会員証には職場がどこだと書いてある。会員証に書かれた職場と違うところにいたら捕まって連れ戻された。
A2 宿舎を塀や鉄条網で囲って閉じ込めた多くの記録がある。
Q 全部そうだったのか？
A 監禁・軟禁は動員先によって違うが、強制貯金は全国共通。朝鮮総督府のマニュアルに生活費以外は貯金させろと書いてある。（貯金通帳を取り上げたら逃げにくい。）
資料：業界団体が朝鮮人労務者の扱いのアンケートをまとめた冊子（日立鉱山の回答）
「通帳は会社事務所が保管し、特別の事情がなければ、預金の払戻の取り扱いをしない。」
Q 酷使虐待の実態は？
A 場所によってさまざまだが、酷使は長時間労働休みなし。病気でも無理に出勤させる。
朝鮮人労務者の大半は肉体重労働に回されたから長時間労働はなおさら危険。
官報の統計によれば、一番きつい採炭夫に優先的に回されている。
具合が悪いと申し出ただけで殴られたり蹴られたり、そんな暴力的酷使虐待が日常化していたことは、特高警察の月報にも残っている。殺した事例もある。
※　以上のような加害者側の記録が被害者の証言を裏づけている。
Q 賃金不払いの実態は？
賃金から寮費、食費を天引きし、それ以外は国元への送金と貯金。
※国元への送金があまり届かなかった
会社が一括送金する約束だったが、真面目に送金しなかった会社が多かったため。
（国元の家族は働き手を取られ、お金も入らずめちゃくちゃになった。）
Q 終戦で動員が終わった後は？
A 貯金やら何やらきちんと清算しなかったところが多い。不払いの総額はわかっているだけで 2 億円近いとする政府の資料もある。（当時の金額）
Q 戦後の対応は？
A 終戦直後を除いて不払い賃金も賠償もいくつかの例外を除いて何も払ってないし、払うのをとことん拒んできた。なかったことにしようとする連中まで出てくる始末。
これは朝鮮人労務者の慰霊碑を立てる事が出来た数少ない例（群馬県）

　県庁がこれをどけろと言って裁判になっている。周りには強制連行は嘘だと言って史実を歪めようとしている連中がいる。
史実が史実だと示すために今回は日本側の資料に絞って出した。が、実際の現場では生身の人間の血が流れた。その有様を知るには少しでもいいから被害者の証言を素直に読んでほしいと思う。ましてなかったことにさせてはいけない。

　群馬県による撤去（代執行）に反対する声明

　関連する東京新聞の記事

　群馬・朝鮮人追悼碑の撤去、海外からも撤去反対の声 200人超署名（msn.com）

（社説）朝鮮人追悼碑　知事は撤去を中止せよ：朝日新聞デジタル（asahi.com）

　２０２４年１月２９日、ついに県による撤去作業が始まりました。遺憾というよりも恥ずかしいです。「戦後５０年」の節目に来日したワイツゼッカー（もと西ドイツ大統領）が、「自らの非も含めて勇気をもって歴史と向き合う」ことを訴えていたことを思い出します。
（1.29付記）
群馬の森「朝鮮人追悼碑」代執行で撤去方針…それで「政治的な紛争」はなくなる？　抗議が止まらない理由とは：東京新聞 TOKYO Web（tokyo-np.co.jp）
　撤去直前の東京新聞の記事も上記に加えました。
（2.4付記）　「戦後処理の問題」